

2017年度
環境活動レポート
(2017年4月~2018年3月)



株式会社 **ENJEC**

2018年5月1日

目 次

1.	組織の概要	2
2.	対象範囲	2
3.	環境方針	3
4.	環境目標の設定	4
5.	主要な環境活動計画の内容	5
6.	環境目標の実績と中期の目標	6
7.	本年度の取組結果とその評価	8
7. 1	二酸化炭素排出量の削減	9
7. 2	廃棄物排出量の削減	9
7. 3	総排水量の削減	9
7. 4	地域の環境保全活動への貢献	10
7. 5	化学物質使用量の削減	13
7. 6	グリーン購入の推進	13
7. 7	サービスの環境配慮	13
7. 8	エコアクション21の広報活動	13
8.	次年度以降の取組内容について	14
9.	環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価結果並びに 違反、訴訟などの有無	15
10.	代表者による全体評価と見直し結果	15

} ¥M

¥ M

TZUQwsM•• ¥› "\qU²hJw-ËpK"\qzf`o
ppU ¥-ï±ç»iÄpK"\q›x®`z ÈOF›o b"
\qx‹q'“z•-w ¥-¶•\úw-çÆ^téY`‡b{‡hz
xt ¥ÛYwÿnt €`hÄÀÆ^t “Ê^zŽ<wÆ^t'“z
¥ÛY›' \$t_n`‡b{

}ÄÀÆ^tSMozËŽ=xÉw Z"w_ntRŠ‡b{
}+w-;"w_ntRŠ‡b{
}:ú›_n`zæ± «ç•-æ"iêÖtRŠ‡b{
}¼w-;"w_nqÿÿ=tRŠ‡b{

2016 à 10 D 15 Ô
ÒÜqp ENJEC
E⁻ p á óp

¥ æ ^ Æ - œ Ý

4. 環境目標の設定

環境負荷の自己チェック結果及び環境取組のチェック結果に基づき、環境目標選定・決定表を作成し、その結果から環境目標を設定しました。また、運用の基準年は新社屋に移転し、業務量が安定した 2015 年度としました。

「二酸化炭素排出量の削減」については、当社の排出源として、自動車の燃料の使用、都市ガス及び電気の使用があります。自動車の燃料については、業務の範囲が九州一円で、毎年、自動車の走行距離が大きく異なること、また、都市ガスについては湯沸器に使用する程度で、使用量が少ないため、自動車用燃料と都市ガスについては、数値目標を掲げないこととしました。なお、自動車の燃料については、2016 年度から単位燃料当たりの走行距離の記録とエコ運転に取り組んでいます。二酸化炭素排出量の削減目標量は使用エネルギーすべての総量で 2015 年度を基準年とし、前年度比 1.0%減、取組目標として電力の使用量を、前年度比 1.5%減としました。

「廃棄物排出量の削減」については、廃液・汚泥の排出量の削減を前年度以下及び古紙リサイクル率（紙リサイクル量 / 紙購入量）を 25%以上として取り組みました。

「総排水量の削減」については、下水道放流であることから給水量の削減を目標とし、2015 年度を基準年に設定して、前年度比 1.5%減の使用量としました。

また、当社が水質、大気などの環境関連の計量業務を行っていることから、引き続き、「地域の環境保全への貢献」を目標に掲げ、地域の井戸水の無料検査、社員の環境資格の取得、社屋の緑化、公園の清掃活動及び天然記念物のツクシオオガヤツリの保護活動を実施しました。

化学物質使用量の削減については、PRTR 試薬の年間使用量の削減並びに毒物及び劇物の保有種類数の削減に取り組みました。

その他、グリーン購入の促進にも 2015 年度を基準年に設定して、前年度比 1.5%増として取り組みました。

5. 主要な環境活動計画の内容

環境活動の実行については、「エコアクション活動手順書」を作成し、それを基に活動しました。主な活動の内容は以下の通りです。

5.1 二酸化炭素排出量の削減（前年比 1.0%削減）のための取組

購入電力量の削減（使用量の 1.5%削減）

- ①エアコンの適温化の徹底
- ②昼光の利用、不在時の消灯、昼休みの消灯
- ③連続運転機器の見直しと適正運転

自動車のエコ運転活動

5.2 廃棄物排出量の削減のための取組

古紙リサイクル率（25%以上）、紙購入量の削減及び紙類のリサイクルの推進
廃液・汚泥の減量化

- ①廃棄物の法令に基づく適正処理の実施
- ②廃液・汚泥の減量化（前年度以下）

5.3 総排水量の削減のための取組

節水の実施（前年度比 1.5%削減）

- ①節水活動の推進

5.4 地域の環境保全活動への貢献

環境活動への参加と環境資格の取得

- ①大濠公園の環境活動
- ②社屋の緑化
- ③社員の環境資格取得の支援
- ④地域の井戸水の無料検査
- ⑤希少水生植物のツクシオオガヤツリの保護活動
- ⑥NPO 支援(海の底泥の浄化活動)

5.5 化学物質使用量の削減

- ①PRTR 試薬の使用量の削減
- ②毒物・劇物の保有種類数の削減

5.6 グリーン購入の推進

グリーン製品購入量の増加（前年度比 1.5%増）

5.7 サービスの環境配慮

分析方法の見直し（少量化、低毒化）

5.8 エコアクション21の広報活動

環境活動レポートの作成、公表

6. 環境目標の実績と中期の目標

表1に本年度（2017年4月～2018年3月）及び過去2ヵ年について、E A 21を運用した結果及び2017年度を基準年とし、積極的に「環境経営」を取り込んだ時の、2020年度の中間目標値を示します。

中期目標は「環境経営」の目標として「毎年3%の売り上げ増」があるために「CO₂排出量の削減」等についての2020年度の中期目標値は2017年度の実績値以下となっています。この目標値に向けて削減に取り組んでいきます。2020年度までには、天井の蛍光灯をLED蛍光灯に変更します。自動車の燃料については、今年度も単位燃料当たりの走行距離を記録し、改善を進めると共にエコ運転活動を積極的に推進します。

「廃棄物排出量の削減」については、古紙リサイクル率（上質紙のリサイクル量／購入した上質紙の重量）25%を目標に取り組んでいきます。

「廃液、汚泥の減量」については、排出量の年度毎の変動が大きく、前年度以下という目標の達成ができない年度が出てくることもあります。その大きな原因は「河床材料調査」や「土壌汚染調査」によって持ち込まれる土砂や土壌が廃棄物として排出されるためです。このことから、分析必要量を厳密に管理し、廃棄物の排出削減につなげて行きます。

「総排水量の削減」については、業務量に比例して水道使用量も増加しますが、可能な限り削減していきます。

「地域の環境保全への貢献」については、地域の井戸の無料検査や大濠公園の清掃活動への参加等を継続して実施していきます。

「化学物質使用量の削減」については、PRTR 試薬の使用量の削減と毒物・劇物試薬の保有種類数の削減について取り組んでいきます。

その他、「グリーン購入の推進」については、毎年、購入量1%増を目標に取り組んでいきます。

表1 3年間の実績と中期目標

環境目標	取組目標		2015 年度	2016 年度	2017 本年度	中期目標 2020年度
CO ₂ 排出量の削減	購入電力量を含む省エネ総量(CO ₂ kg)	目標	167,444	159,511	157,917	166,422 以下
		実績	161,123	159,595	166,422	—
	購入電力量の削減電力量 (kWh)	目標	224,200	224,201	220,839	257,490 以下
		実績	227,616	247,230	257,490	—
廃棄物排出量の削減	古紙リサイクル率 (%)	目標	95 以上	95 以上	25 以上	25 以上
		実績	158	273	20.5	—
	廃液・汚泥の減量処分量 (kg)	目標	7,989 以下	5,603 以下	7,089 以下	10,982 以下
		実績	5,603	7,089	10,982	—
総排水量の削減	節水の実施水量(m ³)	目標	1,604	1,906	1,878	2,581 以下
		実績	1,936	2,235	2,581	—
地域の環境保全への貢献	地域環境活動への参加 (点)	目標	30 以上	30 以上	30 以上	30 以上
		実績	35	48	44	—
化学物質使用量の削減	PRTR 薬品の使用量の削減 量(g)	目標	5,500 以下	5,650 以下	5,88 以下	5,560 以下
		実績	5,650	5,880	5,560	—
グリーン購入の推進	製品購入額の増加(+1%) 額 (円)	目標	814,538	707,627	718,242	553.525
		実績	697,170	675,408	537,246	—
サービスの環境配慮	分析試薬の低毒化実施数 (件)	目標	1 以上	1 以上	1 以上	1 以上
		実績	1	1	1	—

7. 本年度の取組結果とその評価

本年度（2017年度）の取組結果を表2にまとめて示します。

表2 本年度の取組結果

環境目標	取組目標	基準値 2015年度	目標値 本年度	実績値 本年度	判定
CO ₂ 排出量の削減	購入電力量を含む省エネ(-1.0%)総量(CO ₂ kg)	161,123	157,917	166,422	×
	購入電力量の削減(-1.5%) (kWh)	227,616	220,839	257,490	×
廃棄物排出量の削減	上質紙リサイクル率(25%以上) (%)	25以上	25以上	20.5	×
	廃液・汚泥の減量(前年度以下) 処分量 (kg)	5,603 以下	7,089 以下	10,982	×
総排水量の削減	節水の実施(-1.5%) 水量(m ³)	1,936	1,878	2,581	×
地域の環境保全への貢献	地域環境活動への参加(点)	30 以上	30 以上	44	○
化学物質使用量の削減	PRTR 薬品の使用量の削減(前年度以下)量(g)	5,650	5,880 以下	5,560	○
グリーン購入の推進	製品購入額の増加(+1.5%) 額(円)	697,170	718,242	537,246	×
サービスの環境配慮	分析試薬の底毒化・減量化実施数(件)	1 以上	1 以上	1	○

7.1 二酸化炭素排出量の削減

本年度の購入電力量は目標値よりも5%増となりました。年度途中で常時運転の乾燥機や換気扇を見直すことにより、かなりの改善がみられました。写真1に示す電力デマンド監視装置を導入し、電力使用量を削減する活動も実施しています。また、蛍光灯のLED化を実施する予定です。



写真1 電力デマンド監視装置

7.2 廃棄物排出量の削減

古紙リサイクル率（上質紙のリサイクル量 kg / 上質紙の購入量 kg）25%以上で取り組みましたが、結果は20.5%でした。もう一段の努力によって目標値の達成は可能と考えています。紙類のリサイクル活動については、ダンボール紙等を含めて、福岡県中小企業家同友会、地球環境問題委員会が実施している古紙回収活動に参加しています。

一方、廃液・汚泥の減量化では、目標の前年度以下を達成することができませんでした。その原因は土壌の分析検体が大幅に増加したことによるもので、それらの検体の残りが全て廃棄物となっているためです。過剰な量の検体を持ち込まないように努力しています。

7.3 総排水量の削減

水道水の購入量は前年度に引き続き増加しました。主な原因は土壌の粒度分布の測定数の極端な増加であり、有効な対策を実施することが難しい面がありました。今後、分析方法の改善を含めて、無駄な水の使用がないか、さらに一段の厳しい管理を実施します。

7.4 地域の環境保全活動への貢献

7.4.1 地域環境活動への参加

大濠公園（写真2、写真3）の清掃活動及びツクシオオガツリの調査などの地域環境活動に、のべ19名が参加しました。大濠公園の環境活動としては、毎月1回、実施されている大濠公園クリーンアップ隊の清掃活動に、毎回、2名ずつの参加を目標としています。



写真2 大濠公園の清掃（1）



写真3 大濠公園の清掃（2）

7.4.2 社屋の緑化

5月から9月の間、社屋の南側のガラス面に緑のカーテンとして、本年度は琉球アサガオを栽培し、社屋の緑化を実施しました（写真4）。琉球アサガオは壁面に沿って良く繁茂し、建物の遮光効果に役立ちました。緑のカーテンの外側と内側の気温差を測定したところ、快晴時に最大の4℃を観測し、大きな効果があることを再認識しました。



写真4 琉球アサガオによる壁面緑化

7.4.3 社員の環境資格取得

「エコアクション活動手順書」に社員が環境資格を取得する際の講習会への参加費、受験費の支援、また、資格取得した際には「資格手当」を明文化するなど、社員の環境資格取得の支援を行っています。環境資格の取得は本人と当社のみならず、広い意味での社会の環境保全にとって有意義なことと考えており、毎年、支援を続けていく予定です。本年度では、生物分類技能検定者 1 名、作業環境測定士 1 名、小型船舶操縦士 3 名の計 5 名が有資格者となりました。

当社で指定している資格は以下のとおりです。①技術士、②技術士補、③環境計量士（濃度、騒音、振動）、⑤作業環境測定士、⑦臭気判定士、⑧放射線取扱主任者、⑨特別管理産業廃棄物管理責任者、⑩水道技術管理者、⑪土壌汚染調査技術管理者、⑫小型船舶操縦士、⑬生物分類技能検定

7.4.4 地域の井戸水の無料検査

当社が水質分析を業務としていることから、地域の井戸水の無料検査を環境活動として毎年実施しています。2017年3月30日に地域のコミュニティ紙「まいんず」(写真5)で無料検査の募集を行ったところ、38件の依頼がありました。実施後、依頼者から写真6のようなお礼の手紙を頂くなど、地域との繋がりができると共に当社のPRにもなっていると考えています。



写真5 井戸水の無料検査の募集

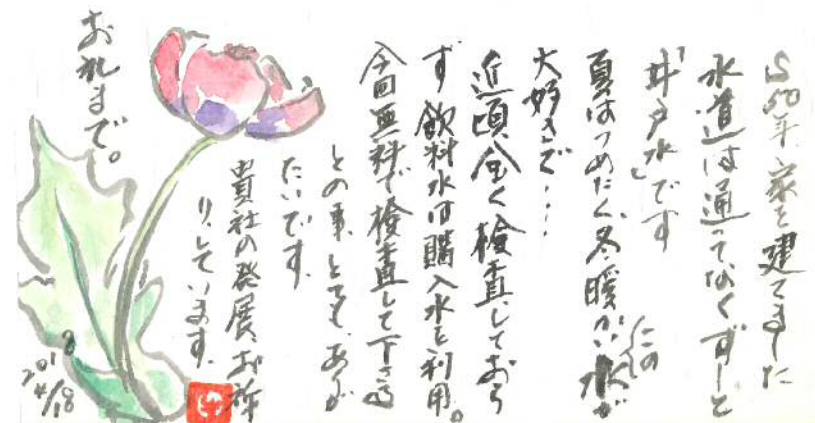


写真6 井戸水の無料検査の礼状

7.4.5 希少水生植物のツクシオオガヤツリの保護活動

ツクシオオガヤツリはカヤツリグサ科の湿地植物で、福岡県指定天然記念物、環境省レッドデータブック絶滅危惧種 IB 類に指定された植物です。福岡市の大濠公園に隣接する小さな池の群落が天然記念物に指定されています。ツクシオオガヤツリは中国の宗との貿易の際に博多に着いた荷物に種子がついてきたものと言われていています。この植物の保護を目的にして、福岡市内の池、沼での分布状況の調査を行っています。分布調査の中では、新たな繁茂池を発見するなどの成果をあげています。



写真7 ツクシオオガヤツリ



写真8 野間大池のツクシオオガヤツリ

7.4.6 NPO の支援

海域の底泥の浄化を課題に掲げて活動している NPO 法人に協力し、実験器材の貸出しやアドバイス等を行っています。浄化手法は光合成硫黄細菌を利用す

るもので、これまでに実施事例がなく、全く新しい方法として期待されています。



写真9 NPOの活動（干潟の浄化）



写真10 光合成紅色硫黄細菌

7.5 化学物質使用量の削減

P R T R 薬品の使用量の削減は目標値を達成しました。薬品の使用量は分析方法が公的に定められていることから、削減が難しい面がありますが、分析方法の改善を含めて努力して行きます。「毒・劇物の保有種類数の削減」については、4種の薬品を減らすことができました。全く使用実績がない薬品を廃棄し、保有種類数を減らすように努力します。

7.6 グリーン購入の推進

目標を昨年度の実績の1.5%増として取り組みましたが、結果は目標値の74%で、未達成でした。近年は机、ロッカーなど大物文具の購入がないことが主な原因ですが、エコ商品のリストを見直すなど一段と購入品のエコ化を進めていきます。

7.7 サービスの環境配慮

取組目標として「分析試薬の少量化、低毒化」を掲げ、年間に1件以上、必ず取り組むこととしています。本年度は、農薬の同時分析によって有機溶剤の使用量を減らすことができました。

7.8 エコアクション21の広報活動

2017年度版環境活動レポートを2018年5月1日に作成し、EA21地域事務局を通して公開すると共に当社の取引先や来客者に配布しました。また、当社のホームページで公開しました。2018年度版環境活動レポートは2019年5月に発行し、公表いたします。

8. 次年度以降の取組内容について

2018 年度から「環境経営方針」の「課題と機会」に毎年売上の 3%増を設定したことから、CO₂ 排出量や総排水量の削減目標は 2017 年を基準年にして、いずれも前年度以下にしました。なお、グリーン購入の推進については毎年 1%増を目標にしました。2018 年度以降は環境経営の考えを積極的に取り入れて EA21 の活動に取り組んでいきます。

表 3 次年度以降の 3 ヶ年計画目標値

環境目標	取組目標	単位	基準年 (2017 年)	2018 年度	2019 年度	2020 年度
CO ₂ 排出量の削減	購入電力量の削減を含む省エネ (前年度以下)	年間総量 (CO ₂ kg)	166,422	166,422 以下	166,422 以下	166,422 以下
	購入電力量の削減 (前年度以下)	年間電力量 (kWh)	257,490	257,490 以下	257,490 以下	257,490 以下
総排水量の削減	節水の実施 (前年度以下)	年間総量 (m ³)	2,581	2,581 以下	2,581 以下	2,581 以下
グリーン購入の推進	購入額の増加 (+1%)	額 (円)	537,246	542,618	548,044	553,525

9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価結果並びに違反、訴訟などの有無

当社に係る環境関連法規の内容と遵守状況を確認した結果を表4に示します。表4に示すように、問題はなく、過去3年間においても法規違反事例はありません。また、関係機関などからの指摘、利害関係者からの訴訟や苦情もありません。

表4 当社に係る環境関連法規と遵守状況の概況

法律名等	対象設備・作業等	確認日	手段	確認
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・処分先の確認	6月28日	電話	○
	・適正保管	6月27日	現場	○
	・マニフェストの管理	6月29日	帳簿	○
下水道法	・測定の結果報告	6月28日	記録	○
毒物及び劇物取締法	・試薬の管理	6月29日	帳簿	○
	・毒劇物の表示	6月29日	現場	○
悪臭防止法	・苦情の有無	6月29日	記録	○
消防法	・設備基準	6月29日	現場	○
	・点検結果	6月29日	帳簿	○
放射線同位元素等による放射線障害の防止に関する法律	・表示の状況	6月29日	現場	○
	・放射線の測定	6月29日	記録	○
フロン排出抑制法	・適正処分	6月28日	記録	○
	・簡易点検の実施	6月28日	記録	○
水質汚濁防止法	・地下水汚染防止	6月28日	記録	○

10. 代表者による全体評価と見直し結果

2018年4月の「定期的見直し」での評価及び指示内容は以下のとおりでした。

「社員の環境への取組は適切に実施されている。電気、水道使用量等は仕事量に左右されやすく、達成が困難になっている。PDCAのAをさらに工夫して実施していくこと。」

以上の評価及び指示に基づき、毎週、月曜日の朝の全体会議の中で、社員全員のアイデアを汲み上げながら活動して行きます。